

第1回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

	性別	年 齢							お住まい			ご意見		鈴木顧問からの回答			
		70歳以上	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	19歳以下	未記入	西成区	大阪府内（西成区外）	大阪府外	未記入		今回議論された内容へのご意見	今回議論されなかった内容へのご意見	
1	男性				○						○			<p>今回議論された内容へのご意見</p> <p>今回議論されなかった内容へのご意見</p>	<p>今回議論された内容へのご意見</p> <p>今回議論されなかった内容へのご意見</p>	鈴木顧問からの回答	
														<p>今池こどもの家では、昭和51年からあいりん児童健全育成事業として、あいりん地域の0～18才の子どもを対象にした居場所づくりを実施しています。児童館としての役割を持ちながら、家庭に関わる環境として子どもたちの生活の基盤を守っています。</p> <p>主に放課後の小学生や中高生の居場所を確保しながら、学習補助的な機能をも果たす学校とも連携し、一人ひとりの子どもに向き合っています。また、子育てに悩む親の相談にも向き合いながら、日々の苦しい生活を少しでも軽減して頂ければと思業務に携わっています。</p> <p>今回あいりんセンターの耐震問題による対策を皆で考えると聞き寄せて頂きました。あいりん児童の健全育成のために作られた「今池こどもの家」も同じ境遇に立たされ、平成27年度をもって、天下茶屋北1-4-6の場所から立ち退く事が命じられました。耐震問題で建物が無くなっても、あいりんやその地域の子どもの貧困は無くなっていません。母子家庭の母親が薬物やアルコールの依存症で悲鳴をあげる子ども。多子家庭で住居が狭い為、宿題ができるスペースもない子どもが数十名通ってきています。</p> <p>今池こどもの家が無くなれば、路頭に迷う子どもや家庭が後を絶たない状態になっています。大きくて利用される方が多い、あいりんセンターと同様に、小さくて今日一日を生きのびる為に闘っている子どもたちもここに居ます。声を上げるには非力で多勢の声に消されてしまうような意見ですが、西成の未来を日本の未来を担う子どもたちを私たち大人がしっかり育てていく必要があると思います。今池こどもの家の存続も視界に入れて頂きたく強く要望致します。子どもたちのために、よろしくお願い致します。子どもの生活と教育の機会を守りたいです。</p>	<p>貴重な意見をありがとうございます。私も、今池こどもの家が担っている機能は引き続き重要であり、この地域のまちづくりの中で、こどもを支援する拠点をどうすべきか、という観点からの議論は必要だと思います。この会議は大きな方向性を打ち出すことが目的なので、今池こどもの家の存続の是非という個別具体的な議論をする場ではありませんが、もう少し大きな観点から、子育て拠点をどうするかという議論は行いたいと思います。</p>	鈴木顧問からの回答	
2	女性				○						○			<p>色々な意見が(前向きな)聞けて良かったです。次回も傍聴がありますように。警察かSPを準備できないでしょうか？</p>		<p>私は、傍聴していただく皆さんも、まちづくり検討会議の重要なメンバーだと認識しています。可能な限り意見をお聞きしたいと思います。また、簡単には傍聴をやめたくありません。次回、傍聴の心得を新たに作り、傍聴者からの意見を反映できるように、ワークショップを試しにやってみたいと思います。ぜひ、ご協力をよろしく願います。</p>	鈴木顧問からの回答

第1回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

3	男性										<p>センターは縮小ではなく拡大すべきだ。西成区に住んでいるが、センター利用しない。手配が多数存在します。太子の交差点や萩ノ茶屋中公園(四角公園)の前、動物園前の近くにも手配の車が停まっている。そういった労働手配をする業者がセンターに登録し、手配をきちんとできるよう、労働法に基づいて労働者が安心して働けるよう管理すること。これからの非正規労働者が働けるよう拡大すべきです。</p> <p>また、女性の日雇い労働者も働けるよう拡大し、環境整備を行うこと、また、外国人労働者がちゃんと働けるよう環境を整えること。</p>	<p>貴重な意見をありがとうございます。非正規労働者や女性、外国人のことをもっと考えるべし、路上手配を何とかすべきというご指摘は大変重要だと考えます。ただ、このまちづくり検討会議は、基本的に、労働行政の話をする場ではありませんので、出てきた意見は記録し、労働行政を所管する国、府に申し送りしたいと思います。ところで、「センターの縮小」という言葉については、あちこちで誤解が生じているように思われます。これは、今行っている労働市場の規模(職業紹介数の規模)を縮小するというのではなく、市長が言ったのは、あくまで今の施設、建物の大きさは必要なく、それを縮小してもよいのではないかということです(その分、まちづくりのために使う余地が生まれ、地域の将来のために活用できます)。今ある職業紹介の規模は、少なくともきちんと維持できるようにしますし、それ以外に担っている様々な機能もきちんと維持するようというのが、市長が方針として明言したことです。今よりも職業紹介の規模を縮小しようということではありません。</p>	
4	男性										<p>不毛なヤジ者は退場させる。議論が進まない。</p>	<p>不毛なヤジは困りますが、私は、傍聴していただく皆さんも、まちづくり検討会議の重要なメンバーだと認識しています。今回、傍聴の心得を新たに作り、傍聴者からの意見を反映できるように、ワークショップを試しにやってみたいと思います。ぜひ、ご協力をよろしく願います。</p>	
5	男性										<p>「写真撮影、録画、録音等」を禁止して秘密にしようとするのか。根拠を示してほしい。</p>	<p>・持帰輸番労働者に弁当購入を強制するようなNPO釜ヶ崎を排除すべき。日雇い労働者を食いものにしている。 ・ひと花センターのような一部の生活保護受給者しか利用できない施設は廃止すべき。貧困ビジネスがはびこるだけだ。</p>	<p>「写真撮影、録画、録音等」をする場合にはマスコミと同様、届け出をしてほしいというのが本来の意図なので、秘密にしようという意図はありません。現に、マスコミにはすべて公開していますし、全時間の動画が配信されています。ただ、ご指摘はごもっともなので、「写真撮影、録画、録音等」については柔軟に認める方向で運用をしようと思います。その他のご意見も、確かに読ませていただきました。</p>
6	男性										<p>早急な問題として、結核の問題はどうする？</p>	<p>結核については、すでに西成特区の「検討事項」ではなく、予算化された重点事業が動き出しております。かなり思い切った予算がついて、前例のないほどの規模の事業が動いておりますので、ご確認ください。詳細については、http://www.city.osaka.lg.jp/nishinari/page/0000273916.htmlをご覧くださいと思います。</p>	
7	男性										<p>・初めから民間資本の導入を決めているが、それでは、地域を更地(新地?)にして大企業のぶん取り合戦になるだけで、地域は変わりません。 ・カジノやリニア、地下鉄などの投資をやめて、公費で住民の意見を聴いて再開発を進めてほしい。 ・センター、市営住宅などは、元の位置に建て替えをすべきです。 ワークショップの議題をあらかじめ発表して下さい。</p>	<p>仕事を増やして、雇用手当を付与して、地域収入を増やすべきです。賭博場の撤去を早く進めてほしい。</p>	<p>大きな誤解があるようですが、民間資本を入れるとか、地域を更地にするというようなことは、まだ何も決定されていません。まさに、これからこの検討会議で議論するということであり、地域の方々が望む方向が、方針として最優先されることとなります。何事も議論次第ですが、ご指摘のように「大企業の分捕りあいをする」というようなことを、地域の方々が望んでいるとは思えませんので、そうなる可能性は低いのではないのでしょうか。現地建て替えについてのご意見は読ませていただきました。その点についても、まさにこれから議論を行います。その他の点については、この会議で議論する内容ではありませんので、担当部局に申し送りさせていただきます。ワークショップの議題は、前もって決めているわけではなく、毎回の議論の結果、次のテーマが浮かび上がってくるという状況です。筋書きのない、前例のない議論をしているのです。もっとも、次の議論のテーマは、前の会には決められるようにしたいと思っています。</p>

第1回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

8	男性																		まちづくりに公営住宅は不可欠と思います。元タスラムから始まった釜ヶ崎が、簡宿の拡大で、単身者の街になった。今、もとの普通の街にするチャンスかもしれない。そのためには、公営住宅が貴重と感じました。	雇用保険からの排除によって、労働者の貧困化と生保への転換が進んだ国の雇用、労働対策が街に与えた影響と、もし、そうでなかったらとした想定も大切と思う。	貴重な意見をありがとうございます。公営住宅については、あいりん地域内に残すということが、すでに市長が示した方針となっています。その他の意見も、読ませていただきました。	
9	男性																		・急ぐことではない。 ・住民の意見を聞くべき。 ・排除されてきた人間として信用できない。	排除されてきた人達に対して、謝罪すべき、それが先です。	貴重な意見をありがとうございます。ご指摘の内容は、検討会議の委員からも出されておりますので、どのように反映するか、検討してまいります。特に、住民の意見を聞く方法については、次回から傍聴者のワークショップを企画するなど、工夫しておりますが、さらに工夫を検討したいと思っております。	
10	女性																		・この地域に足りないものを必要とされているものを話し合っほしい。 ・福祉マンションに住む人たちの防災拠点・避難場所となるような施設がほしい。 ・寄り場自体を安心して働ける場にしてい。不当労働行為に対して、相談できる場所、労働者の権利を守ってくれるような機能を持つ場所を中心に、労働者の集まる街になれば良いと思う。 社医センの入院機能の存続について明確にしてほしい。		貴重なご指摘をありがとうございます。防災拠点、避難場所についても大変重要と考えておりますので、この検討会議で議論してゆきたいと思っております。その他のご意見も、確かに読ませていただきました。	
11	男性																				社医センについては、入院など果たすべき機能の今後のあり方、配置の場所など、このまちづくり会議の中でも話し合っゆきたいと思っております。	
12	男性																		・傍聴者から、いろいろ意見があったと思いますが、それだけ不安定な状況が釜ヶ崎にあるから出てくるものだと思います。第1回だけでなく、これからも議論をできる場をつくってほしいと思っております。 ・横浜の寿でも、センター住宅の問題が釜よりも早く出て議論が進まれていると聞きます。いろいろな人の意見を聞きながら次世代に繋げてほしいと思っております。そして、人権を意識した町づくりが子どもたちにとってプラスになると思っております。	西成の子どもたちも地域学習を続ける中で、現、今宮中も落ち着いて、いじめのない学校がつくれていると思っております。釜の歴史を子どもたちに伝え、学習することで大きく変わってきていると思っております。	貴重な意見をありがとうございます。傍聴していただく皆さんも、まちづくり検討会議の重要なメンバーだと認識しています。可能な限り意見をお聞きしたいと思います。また、今後でもできるかぎり傍聴を続けたいと思っております。今回、傍聴の心得を新たに作り、傍聴者からの意見を反映できるように、ワークショップを試しにやってみたいと思っております。ぜひ、ご協力をよろしくお願い致します。寿の例は存じております。参考にできる点は参考にゆきたいと思っております。また、こどもの教育環境についてのご意見も、担当部局にきちんと申し送りして、検討をしてもらいます。	
13	男性																		・グループでの会議テーマを事前に知らせてほしい ・話が聞き取りにくい場が多かった。運営について工夫してほしい。 ・国、職安の話はしないのか？		ワークショップの議題は、前もって決めているわけではなく、毎回の議論の結果、次のテーマが浮かび上がってくるという状況です。筋書きのない、前例のない議論をしているのです。もともと、次の議論のテーマは、前の会には決められるようにしたいと思っております。話が聞き取りにくかった点については、大変恐縮でした。次回から、いくつか会場運営の工夫をしておりますので、改善がみられると思っております。この検討会議は、あいりんセンターとその周辺のまちづくり、配置問題を中心的に話し合う会議です。労働行政の話をする場ではありませんので、出てきた意見は記録し、労働行政を所管する国、府に申し送りしたいと思っております。	
14	男性																		議論の中でもあったように、この問題は6回ほどの議論で簡単に片付けるべき問題では決まらなと思う。		ご指摘ごもっともだと思います。回数や、ここで打ち出す方針をどの程度まで具体的なものにするか、どこまで打ち出し、どこをこの後に続く議論に回すのかは、これから皆さんと検討してゆきたいと思っております。実際には、この検討会議で打ち出すのは、どのエリアをどのような目的で使うのかなど、大きな方針程度のものであるのではないかと考えています。具体的な内容は、この検討会議の後であってもスケジュール的には問題ありません。その意味で、この地域のまちづくりをどうすべきかという全体的な議論は、この検討会議が終わっても、まだまだ続くと思っております。	

第1回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

21	男性																		・テーブル分けは、ごちゃまぜではなく、関連団体ごとに議論しなければ効率が良くない。 ・利権問題について議論されていないので、いびつな再生計画が立つ不安がある。(想定される事項について、議論の深みが浅い)		貴重なご意見をありがとうございます。関係団体ごとの議論では、まちづくり全体の議論にならない点を今は恐れておりますが、運営方法については、不断の工夫をしてゆきながら、ベストの体制を模索します。その他、御指摘の点に注意しながら、バランスの良い議論になるように努めます。				
22	男性																		代表者による自由な議論を公開で傍聴し、理解を深めながら地域に真に貢献できる姿勢を確かなものにしていきたいと願っていましたが、期待はずれでした。 ・違法・不正の排除の推進の工夫が急。 ・シェルターの建設の時期を明確化すること		ご意見をありがとうございました。シェルター建て替えについては、当初の計画通り、質の向上と居場所づくりという点を踏まえた建て替えにすることを、市長も明言しています。入札不調は全国的な現象ですが、市長は予算的な措置もきちんと行うと明言しています。既に動いているシェルターの事業は、今後のことを話し合うこのまちづくり会議の直接のテーマではありませんが、皆さん方に、はやくシェルターの進捗状況をお知らせできるよう、担当部局に申し送りさせていただきます。				
23	女性																		・傍聴要領の3-(2)に退場していただくと書いてあります。説明をしている時に勝手に意見を言う青年を退場とし、別室で落ち着いてもらうことも実行されてはどうか。他の人は、大変迷惑です。聞き苦しいことと、行政の方々の力の無さが情けないです。 ・このような会議は大変良いと思います。回数を重ねて必ず結果がでると思います。		貴重なご意見をありがとうございます。傍聴のルールについては、次回から新しい工夫を行います。勝手に意見を言うのではなく、きちんと意見が言える場(傍聴者のワークショップ)を設け、そこで対処したいと思いますので、御協力とご理解をよろしく願います。				
24	男性																		釜ヶ崎の総合センター建替を軸に、釜全体の地域、町づくりをイメージするというが、具体的なプランが説明されていないところに、みんな不安が走っている。行政の一方的な方向性提示を回避するあまり、イメージが見えない部分が、それだけ行政不振につながっている。釜ヶ崎のこれからの全体像を早急に提示するべきだ。	東京オリンピックの開催イメージが出されて予算がつくれ、イメージの具体化が進むように、どのような「あいりん地域のまちづくり」をするのか具体的に示すべきだ。	貴重なご意見をありがとうございます。はじめの何回か、まずは、意見・要望を自由に議論する機会を設けたのち、それを具体的なイメージにする作業を行いたいと思います。初めから結論ありきではないことがこの会議の特徴なので、しばらくは産みの苦しみが続きますが、そのプロセスを含めて、地域の方々主体のまちづくりだと考えています。もともと、できるだけ早く全体像を見たいと言うご意見はごもっともですので、早くイメージがまとめられるように努力いたします。				
25	男性																		・鈴木互顧問の立場がよくわからない。授権行為(市長権限のどの部分が与えられているのか。どのような手続きが与えられているのかがよく分からない)がなされているのでしょうか。 ・同じ事が方向性を決めた有識者座談会にも言えるので、同じ内容(上記)で答えてほしい。 ・市議会(代議制民主主義)とこの鈴木顧問による手続きによる市長決定との関係がよくわかりませんので説明して欲しい。 ・いわゆる民主主義の手続き論がよくわかりません。 ・市長権限と議会との関係をお願いします。		特別顧問(西成特区担当)の立場は、西成特区の推進について、市長と西成区長に対してアドバイスを行うというものです。また、有識者座談会や各種エリアマネジメント協議会、今回のまちづくり検討会議等の座長にもなっています。要するに何の権限もないということですが、議論のまとめ役、会議の運営役をしているということですが、有識者座談会やこのまちづくり会議は決定機関ではありません。その議論を踏まえて、市長が決定する(あるいは決定した)ということですが。				
26	女性																								
27	女性																								
28	女性																								
29	男性																						会議運営、特に傍聴者の不規則発言について、会議の秩序維持(2)に注記としてあるが、区長あいさつの途中からほぼ同一人物のヤジ、ののしりの発言が耳につき、鈴木先生の懸命な説明も聞きづらい限りであった。退場させるべきは早々の退場を促す様、次回以降は留意願いたい。		貴重なご意見をありがとうございます。傍聴のルールについては、次回から新しい工夫を行います。勝手に意見を言うのではなく、きちんと意見が言える場(傍聴者のワークショップ)を設け、そこで対処したいと思いますので、御協力とご理解をよろしく願います。
30	男性																						多くの傍聴者の中、声の大きい人が大変つらい状況。民主的な会議の運営を行っているが冷静な多くの参加者がいる中、一部の人の存在で会議が円滑に進まなかったことが残念だ。		貴重なご意見をありがとうございます。傍聴のルールについては、次回から新しい工夫を行います。勝手に意見を言うのではなく、きちんと意見が言える場(傍聴者のワークショップ)を設け、そこで対処したいと思いますので、御協力とご理解をよろしく願います。

第1回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

40	男性	1	1	<p>・有識者は委員からはずすべき「～報告書」の執筆者が委員に入るのをおかしい。結局、会議をリードしようとしながらめちやくちやになっている。大阪市、区役所が有識者に丸投げしていることが最も問題。区役所がこ検討会議をどうもっているのか分からない。</p> <p>・「あいりん地域のまちづくり検討会議」というなら、山王連合が入っていない。このことについて、次回、必ず説明してください。</p>	<p>貴重な意見をありがとうございます。有識者委員は、今回、実際にはワークショップのまとめ役に徹していただいているので、意見を言ったり、会議をリードしているわけではありません。有識者委員にはそれなりの役割があり、地域に住んだり働いたりしている方々だけではお互いに利害がぶつかって議論が進まなかったり、後々感情のしこりを残したりということがあります。中間干渉地帯というか、たたかれ役として有益だと考えております。この会議のテーマの中心は、あいりん総合センターの建て替えと、それによって生じる「周辺」地域のまちづくりとなります。山王については、ほとんど影響が生じないと思いますので、委員になってはいただきませんでした。しかし、全体の議論が行われる中で、山王地域も含めて議論をする必要があるということになりましたら、改めて山王からも委員を検討させていただきたいと思います。そのような委員選出は柔軟にできる体制にあります。</p>
41	男性	1	1	<p>もし、建替・移転等により、労働者の姿をセンター北側の大きな通りや新今宮駅ホームから見えなくするようなことがあれば、絶対間違っている。釜ヶ崎のまちは、これからも労働者のよりどころとして存続していくことは当然で、交通量の多い前の道路や電車からこれまでもそうだったし、これからも労働者の姿が絶えず見え、労働者のまちであることを認識してもらうことが重要なことだと思う。そういう中で育っていく子どもは少なくとも差別や偏見をもたない人間になっていくのではないかな。</p> <p>確かに子どもは少なくなっていくだろう。だが、他地域から夫婦を迎えたとしても人口減少・少子化が進んでいる状況では、人間の取り合いになるだけでたいした意味はない。釜ヶ崎は独自の特色を活かしてやっていけばよい。決して労働者の姿を隠すようなことをしてはならない。</p>	<p>貴重な意見をありがとうございます。重要な御指摘だと思います。御懸念のように、「労働者の姿を隠す」という意図はありませんし、實際上、今後も「隠す」ようなことは不可能だと思います。むしろ、労働者のまちなを誇りにするような認識でいるべきで、子育て教育にも反映させるべきという点は、同じ認識です。</p>

第2回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

	性別	年齢							お住まい			ご意見		鈴木顧問からの回答		
		70歳以上	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	19歳以下	未記入	西成区	大阪府内(西成区外)	大阪府外	未記入		今回議論された内容へのご意見	今回議論されなかった内容へのご意見
1	男性		○							○				寄せ場が不要と思っている区民の意見は反映されないのでしょうか。		寄せ場が地域内にあることによって、特に住民の方々に大きな負担をおかけしていることは重々承知しております。今回の議論においても、寄せ場を地域外にという意見は実際にありましたが、やはり多くの委員の方々の意見は、お互いに歩み寄って、寄せ場と地域の共存を目指すべきというものであると理解しております。ただ、今回の議論は、「労働者だけのまちづくり」ではなく、「住民や将来のためのまちづくり」も同時に目指しており、その中で、地域住民の方々の多くが望んでいる「普通のまち」を実現するための施策を反映できればと考えています。
2	女性		○							○				グループでの話し合いが不明確、傍聴席の声が大きく具体性がないのではなお意味不明 当事者意識が感じれなく、傍聴者は怒る。また、グループ意見は地区民が主体になるのに、ある程度の骨格を求める部分もある。グループ参加者の能力不足を感じる		貴重なご意見をありがとうございます。運営方法については、現在のやり方がベストとは必ずしも思っておらず、今後も、見直しをしていきたいと考えております。
3	男性				○							○		会場でのルール、傍聴心得を決めても、ルールを守らない人をそのままにしては会議が混乱するだけです		貴重なご意見をありがとうございます。運営方法については、現在のやり方がベストとは必ずしも思っておらず、見直しをしてゆきたいと考えております。
4	女性		○								○			西成の内容がわからない。それなのに住宅・医・C(センター)の移転が論じられているのはおかしい その土地を資本主義者へ渡して、貧乏人を追い出すというだけではないのか。今住んでいる人、医療利用者、そして多くのホームレスの人たちへの配慮が全くないのが白々しい。この時間にも道端で寝ている人が居る。日本の中で釜ヶ崎の存在は地域で生きていけない人達への救いの場である。今までのように人々が最低の人生でも共同意識を持って生きていけるこの釜ヶ崎を大切にしたい。きれいなまちとか住みよい町とかのキレイごとは必要なし。結核病院はこの場にあるべしと思う。劣悪な病院に放り込むな。安心してゆっくり直せるような、そしてDOTSできるような病院が欲しい	WSというのが単なる機嫌取りとしかおもえない。行政の押しつけばかりが感じられる。進行に問題あり ヤジが飛ぶのが当たり前のことなので、その人たちだけで応じるのは他の人たちもヤジとして叫びたい ことがあるとにかく押しつけはイヤだ！	議論の中身を良く見ていただくと分かると思いますが、社医センター利用者の生活保護受給者の方々、ホームレスの方々への施策についても議論が行われており、決して軽んじているわけではないと思います。また、西成特区の既に動いている施策の中にも、それらの方々に対する施策はきちんと行われています。マスコミの拙い報道により「センター移転」という言葉が独り歩きしているようですが、ここで行われている議論は、例えば、西成労働福祉センターや職安については、現地から移転をせず、今の場所に規模を縮小して継続し続けるという選択肢は含まれております。西成特区の方向性を定めた有識者座談会報告書でも、耐震性に問題のある市営住宅と社医センを近隣地域に移転した上で、労働関係の施設は現地で建て替えという「部分移転案」を提案しています。また、それを元にした市長の方針も「あいりん総合センターの移転」と言っているわけで、労働関係の施設は移さないという部分移転案はそこに含まれているという意味です。

第2回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

5	男性																		市営住宅に住んでいるものとして、どこに移転するのが一番の問題です。萩ノ茶屋小学校跡地でないのならどこなのかはっきりしてもらいたい。高齢者の方が多くなってきているので、遠い場所への移転はできません。まず、移転ありきは反対です。		市営住宅の住民の方々が不安でいることは重々承知しており、申し訳なく思っております。市営住宅の皆さんが主張している①全員一緒に移転したい、②医療や介護の問題もあるので、遠くには移転したくないという意見は届いておりますし、委員の皆さんの中でも議論の俎上には上がっています。近隣の候補地はいくつかあり得ると思いますが、いずれにせよ、このまちづくり会議の中で、地域の方々と一緒に考えて、どこに配置すべきかが議論されることとなります。もちろん、移転しないという選択肢もあり得ると思います。その場合、建て替えまでの間、住宅の皆さんが仮移転することになります。委員の皆さんの議論でも、住宅の皆さんの意見が最優先だという意見が多く出されていますから、住宅の皆さんの統一したご意見であれば、それは重要視されると思います。
6	男性																		子どもの意見も取り入れられたら。。。(時間的な問題、場の雰囲気的にも難しいと思いますが)	貴重な意見をありがとうございます。現在、こどもの意見を代弁してもらった意図で、こどもの里の荘保委員にお入りいただいております。今後、必要性を検討し、教育関係の委員の新たな参加について検討させていただきます。まずは、その様子を見まして、それでも子どもの意見があまり反映されていないということであれば、新たな方法を検討したいと思います。	
7	男性																		前回は質問したが鈴木さんから、まともな回答がなかった	「利権関係の構図についての説明」	「利権関係の構図」とは具体的にどのようなことを指すのでしょうか。詳しくご説明いただければ幸いです。
8	男性	○																	まとめる時は気に入った意見しか取り上げない(まちがい)すべての意見は、直接発言させるべきである		会議の時間が限られているため、会議の時間内で紹介できるのは主要な意見のみです。ただ、気に入った意見しか取り上げないということではなく、中立の立場のファシリテーターが多くの方々からご意見のあったものをピックアップしています。ただし、全ての意見は、きちんと次の回に整理したものを委員にはお配りしていますし、全ての意見が議論の俎上には上がっていますので、ご理解を賜われればと思います。
9	女性																				
10	男性																		「あいりん」地区に限定することなく、JR新今宮、地下鉄、花園町駅、JR天王寺までの大広域のまちづくりの構想を立ててみるべきではないでしょうかと思います。大阪府庁舎。大阪府役所を西成の地につくり総合庁舎、市役所として病院労働センター学校、大学、アミューズメント施設も入る建物、ゾーンにする。市大広域まちづくり(地域づくり)をしていければと思います。また、あいりん地区以外の西成区民大阪市民はどのように考え行動しようとしているのか、同時進行が必要とおもいます。		大変貴重な意見をありがとうございます。時間と回数に限りがあるため、とりあえず、最優先事項として、あいりん総合センターの建て替えとその周辺のみについて、大方針を得るべく、現在議論をしておりますが、最終的にはもっと大きくなりでの議論が必要だと思っております。次のステージでの議論になるかと思っております。
11																				・行政の方が多く出席されているのに、ほとんど発言されていない。行政の方も発言してください。 ・傍聴要領にそって積極的に対処すべき。途中から黙認状態ではないか。 ・傍聴者が公然で会議中にビラを配っている。それを黙認している区役所員が大勢いることは大問題である。「傍聴心得」に該当する。 (2、傍聴者の遵守事項の(5)に該当する)	行政の立場は、ワークショップから出た質問等に答えるというもので、直接、全体の場で発言することは考えていません。地域の方々の議論がもう少し進んだ段階で、それを具像にするときに、行政がお役に立つことになると思います。会議中にビラが配られたことは大変残念に思っております。気づいた時には、有識者の座席に配布の方が来ており、私たちの制止にも関わらず、その方は配布を続けました。会場にも勝手に配布を行ったことは私は後で知りました。お詫びをしたいと思います。次回からは、傍聴要領に沿った積極的対処についても善処したいと思います。

第2回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

12	男性																		<p>国の労働対策をどう引き出していくのか、あいりんセンターの建替え問題の中で考えてほしい</p> <p>生活困窮者自立支援法、生活保護法、ハローワーク、この3つではこぼれ落ちる労働者やホームレス状態の方への就労対策はやはり国も動いていかないと進まない。そのためにセンター建替え問題は重要な試金石だと思う。稚拙ならず丁寧に議論を積み重ねて欲しい。場所や建物の問題だけではない。</p>	<p>ホームレス状態の生活であっても、生活保護を受けずに働いて自活したいと思う人々が多数あいりん地域にいる。現状、生活保護法の給付の仕組みや扶養親族への照会等の仕組みを変えていくことに取り掛かるべき。生活保護法の中にあっても、仕事をすることによる給付を求める人には、扶養照会や給付の仕組みを変えていかなければ結局、ホームレスの状態は改善していかずまちづくりも根本的に進むことはないと思います。</p>	<p>このまちづくり検討会議はあくまでまちづくりに関することを議論することが目的であり、基本的に、労働行政の話をする場ではありませんので、出てきた意見は記録し、労働行政を所管する国、府に申し送りしたいと思います。生活保護行政に関することは、ご意見として承りました。</p>
13																			<p>これから決めます。何も決まっていけないとの念押しですが、「移転」は決定ということでスタート。</p> <p>“決めたこと”に公開して合意を得た(12月末)というシナリオにしか見えません。違いますか？</p> <p>何故移転からスタートなのですか？お答えください。</p>		<p>地域の方々の意見が最優先で、市長の方針が決定されるということに変更はありません。マスコミの拙い報道により「センター移転」という言葉が独り歩きしているようですが、ここで行われている議論は、例えば、西成労働福祉センターや職安については、現地から移転をせず、今の場所に規模を縮小して継続し続けるという選択肢は含まれております。西成特区の方向性を定めた有識者座談会報告書でも、耐震性に問題のある市営住宅と社医センを近隣地域に移転した上で、労働関係の施設は現地で建て替えという「部分移転案」を提案しています。また、それを元にした市長の方針も「あいりん総合センターの移転」と言っているわけで、労働関係の施設は移さないという部分移転案はそこに含まれているという理解です。住宅や病院の近隣地域への移転は、耐震性の問題が深刻であることが理由です。</p>
14	男性																		<p>センター、社医セン、市営住宅、職安のそれぞれの現状を明示して、今の地域ニーズに合わせる案を一つ一つ丁寧に考えていく。社医センターは縮小ではなく、結核、精神について特区でもよいのでは</p> <p>職安、労働センターを合体することのメリット、デメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報(議論された内容)をまちにあった形で公開すべき。公開予定は？ ・子どもを呼び込むための具体的な方向性は？ ・今回のテーマを代表者だけでなく(委員だけでなく)みんなで議論すべき ・いつでも誰でも利用できる施設を作るべき 子ども(児童館的なもの)、生活保護受給者(65歳以上だけでなく) 	<p>貴重なご意見をありがとうございます。ぜひ、そのような方向で議論をしたいと考えております。社医センターについて、結核・精神の分野は機能拡大することも、議論の俎上に上がってきております。情報の公開についても、まちの方々にきちんと届くように方法を検討しております。</p>
15	男性																		<p>露店があるおかげで私のような日雇いは安い食料が買えて餓死しないですんでいる。最近リヤカーでお菓子を売っている女性を見かけるようになった。露店も合法的に営業できるような方策を考えるべきである。</p> <p>生活保護受給者よりも少ない年収なのに家賃さえ自腹である。ひと花PJでは私よりも高収入の生活保護受給者を優遇している。生活保護受給者より低収入の日雇いにも何らかの手当てをすべきでないか</p> <p>大阪社会医療センター付属内科診療所が廃止され不便に感じている。新しい社会医療センターができる時は現在できない科を新設してほしい。</p>		<p>大変貴重なご意見をありがとうございます。露店については、違法にならない方法で営業してもらいたいと考えております。社医センの機能拡大(例えば、結核や精神など)についても、今後の議論の俎上に載せてゆきたいと考えております。</p>
16	男性																		<p>釜ヶ崎の町が好きで37年間関わらせてもらっています。釜ヶ崎は日雇い労働者のまちであり、労働者の意見を聞く中でのまちづくりが大事だと思います。</p>		<p>貴重なご意見をありがとうございます。労働者の方のご意見をお聞きするために、代表の方々に委員に就任いただいております。その他の方法については、ご意見を踏まえ、今後、検討させていただきます。</p>
17	女性																		<p>とても興味深かったです。前回よりは議論が深まってきていると思います。傍聴の意見を聞くのもチャレンジだと思いますが、民主主義という感じでそれが西成から始まるのはすごいと思います。</p>		<p>ご評価をいただき、ありがとうございます。引き続き、見守っていただければ幸いです。</p>

第2回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

18	男性	○																		あいりん総合センターの整備について ③部分移転がベターであると思われる。住宅・医療センターを移転センター耐震工事をしてあと30年～40年もたしたほうが良いと思う		貴重なご意見をありがとうございます。それも一つの選択肢だと思えますし、今後、議論が行われることになろうかと思えます。
19	男性	○																		各グループでのお話しを聞けば、住宅、医療センター、福祉センターの移転、縮小など考えられないと確信を持ちました。私は萩之茶屋地域に住んでいませんが、萩小に勤務し子供たちを育ててきましたので萩小の地域の人と思って発言しています。前回はまだ有識者の視点が出されましたが、今回意見としても出ていません。したがって若者子どものことが話せる委員を選定してください。	本気の意見として現在のセンターの拡充こそすれ、縮小、移転の意見は出されていません。 公民人などかのピラをなぜ配布させたのか？それなら誰もがピラを持ってきてよいのか？これについては回答求めます。	貴重な意見をありがとうございます。現在、こどもの意見を代弁してもらおう意図で、こどもの里の荘保委員にお入りいただいております。今後、必要性を検討し、教育関係の委員の新たな参加について検討させていただきます。会議中にピラが配られたことは大変残念に思っております。気づいた時には、有識者の座席に配布者の方が来ており、私たちの制止にも関わらず、その方は配布を続けました。会場にも勝手に配布を行ったことは私は後で知りました。お詫びをしたいと思います。次回からは、このようなことが起こらないように努めたいと思えます。
20	男性	○																		「結核センター」事業が主体化しているというお話でしたが、中身が見えない。地区の中に「……センター」ができる方向なのか		結核対策の事業については、現在、有識者座談会報告書が提案したワンストップセンターをめざして、徐々に施策が進んでいるところです。ただ、地域内に結核の入院施設を造るかどうかという点については、現在行われているまちづくり検討会議や、この後の次の具体的な議論のステージで、検討を重ねてゆきたいと思っております。
21	男性	○																		西成釜ヶ崎のまちづくりは最貧困課題、およそ、全国の都市、街がかかえている、課題、問題を全て網羅しており、集中的にあらわれている。あるいは政治的・経済的に意図的に集中させられてきた地域であると思う。この街の課題解決が西成発の日本初の試み、モデルになる。その意味から橋下大阪市長松井大阪府知事、国関係省庁他代表者のこの検討会議へ毎回の参加出席が必要ではないのか。たとえ区民や住民から厳しく、文句を言われ、困難があろうと、それが住民、関係者の意見、提案を聞く活かす実行する手立てとなるということになると思えます 労働センターの整理。規模縮小ではなく、むしろこの際日本最善最新の施設を日雇い労働に限定せず労働雇用企業全般の総合的機能を持つ労働センターにすべし。あわせて駅前という強みを活用し、多機能で区民、市民交流的で多様性のある施設にすべき。教育(乳幼児から大学、大学院、社会人大学研究センター)福祉、まちづくり、銀行、遊園地、映画館、ファッシュン、飲食店、デートスポットがあってもよい。そしてなによりも、住民、労働者、子ども達、人々が「住んでよかった、この地で生きてよかった」「働いてよかった」「楽しい、うれしい」と感じ、実際そうなる。実現できるセンター的機能＝地球のまちづくり。検討会場がその実現、課題解決になるものにとともに創りあげていきたい。 マンガ・イラスト入りの資料はわかりやすいが、さらにもっと踏み込んだ資料にしてください さらにポトムアップであり「言いつばなし、聞きつばなし」でないし、検討会場のあり方・持ち方を創りあげていきたいとおもいます。		貴重なご意見をありがとうございます。市長、知事にはそのようなご意見があったことはお伝えしたいと思います。今回の検討会議では、あいりん総合センターの建て替えとその周辺のまちづくり、配置問題が最大のテーマとなっておりますため、なかなか全ての議論を出しつくすことは難しい状況ですが、ぜひ、この後に行われる具体的論の次のステージで、いろいろなご意見を反映できればと思っております。今後も、建設的なご意見をいただけますように、お願いいたします。

第2回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

22	<p>男性 質問 状</p> <p>○ ○</p>	<p>第一回の検討会議の最後に傍聴席から「結核センター」に関する質問をさせて頂いた者です。 西成特区構想の報告書に明記されていた「入院機能を備えた結核センターを地域内に作る」ということが抜け落ちているのではないか、という質問でした。対して鈴木氏は「抜け落ちているのではなく、すでに事業計画に乗って進んでいるので議題にしていない」といった内容の回答だったと記憶しています。 その時は自分の不勉強を恥じると同時に、すでに進んでいるのなら、と安心も致しました。 しかし、その後検討会議に加わっている4名のメンバーにその件を確認しました。すると、一人ひとりのニュアンスは違うものの、いずれも、結核センター自体の事業計画は進んでいるが、地域内に結核の入院病床を作る事にはなっていないのでは、とのことでした。さらに、入院病床は淀川の十三病院になるのではないか、との話も聞きました。前回の私の質問の仕方が悪かったのかもしれませんが再度質問をし直させていただきます。 ①「既に進んでいると言われている事業計画の中には、この地域内に結核患者用の入院病床を作ることも含まれている、と理解してよろしいのでしょうか？」 また、結核病床のことは移転後の社会医療センターの総病床数との兼ね合いで決まるのではないかと、その意見も聞きました。もし本当にそうなのであれば本末転倒ではないかと考えます。 ②「報告書と異なる施策を行政サイドが進めているのであれば再度議題として検討する責任が、ボトムアップ型を自認するまちづくり検討会議にはあると考えますが、いかがでしょうか？」 以上、2点に関してどのようなかたちでも構いませんので回答をお願いします。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。確かに、私に誤解があったようです。現在、有識者座談会報告書が提案した結核ワンストップセンターを目指すべく、事業化が進んでいるのは事実です。ただ、現在までのところ、「入院機能を備えた結核センターを地域内に作る」というところまでは行っておりません。行政の仕事は、何事も一朝一夕にというわけにはいきませんし、ご案内のように、社医センの今後とも関わるところなので、社医センのあり方とともに議論しなければならない課題だと考えているからです。病床数との兼ね合いということではありませんが、ワンストップセンターと社医センをどう連携してゆかかという点は、交通整理というか議論しておかなければならないと思います。決して、施策から、地域内の入院施設が落ちたということではありません。私自身の個人的な意見としては、結核の入院施設は何らかの形で地域内に確保されるべきだと思いますし、最終的に結核センターのようなものが実現されることを望んでおります。この問題は、今回のまちづくり検討会議(今回は、あいりん総合センターの建て替えとその周辺のまちづくり、配置問題で大きな方針を得ることが目的)というよりは、西成特区構想全体の事業の継続性、チェックの話がありますから、まちづくり検討会議の後に行われる次の具体的なテーマのステージ、及び各エリアマネジメント協議会で、具体的に取り上げてゆきたいと思います。現在、進んでいる施策の内容については、個別にご説明をさせていただいた通りです。</p>
----	-----------------------------------	--	---

第2回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

23			<p>2014年9月22日より公開で行われている、「あいりん地域のまちづくり検討会議」について、以下の2点を申し入れる。</p> <p>①2014年9月22日に行われた会議の際の議場での「不規則」発言の多くは、「あいりん総合センター移転ありき」という前提で進められている話し合いのやり方に対しての傍聴者の不信にその根本原因がある。</p> <p>まずは、「あいりん総合センター移転ありき」という前提を市長自ら撤回し、その上で話し合いを進めていくこと。</p> <p>②「あいりん地域のまちづくり」という全体的なテーマで話し合いを行う以上、「検討会議委員」のみならず、傍聴しやすいように会場を設定する(ワイド・スクリーンの設置)等して、傍聴者の発言、意見もできるだけ保障すること。又、退場等の措置によって、傍聴者を話し合いから排除しないこと</p>		<p>まず、有識者委員に配ってほしいと言うご依頼については、後日、きちんと対処するつもりでありました(その場で配ることは規則違反です)。それにもかかわらず、我々に無断で、勝手に有識者席に闖入して、我々が制止したにもかかわらずピラを配り、会場にも勝手な配布を行ったことに、嚴重に抗議します。傍聴要領でもこのような行為は禁じておりますので、これは重大な規則違反です。今後、このような行為は絶対に認めるつもりはありません。その上で、①の「あいりん総合センター移転ありき」という前提云々について、お答えしたいと思います。</p> <p>まず、第一に、これは市長の方針として示したと言うことにはすぎず、今回のまちづくり検討会議の議論の前提になってはなりません。また、市長方針についても「地域の方々の意見を最優先する」という方針こそが最優先されるべきものなので、地域の方々の多くが一致して移転を望まないということであれば、それはそれで市長に報告する内容になると思います。また、マスコミの拙い報道により「センター移転」という言葉が独り歩きしているようですが、ここで行われている議論は、例えば、西成労働福祉センターや職安については、現地から移転をせず、今の場所に規模を縮小して継続し続けるという選択肢は含まれております。西成特区の方向性を定めた有識者座談会報告書でも、耐震性に問題のある市営住宅と社医センを近隣地域に移転した上で、労働関係の施設は現地で縮小の上、建て替えという「部分移転案」を提案しています。また、それを元にした市長の方針も「あいりん総合センターの移転」と言っているわけで、労働関係の施設は移さないという部分移転案はそこに含まれているという理解です。住宅や病院の近隣地域への移転は、耐震性の問題が深刻であることが移転の理由ですが、地域の方々や住宅等の当事者の方々も絶対に移転はしない、時間がかかっても現在の場所の建て替えを望むというのであれば(ただし、その間、5-6年の間は住宅の方々は仮移転場所に移ることになると思います)、それはそれで最優先すべき地域の意見として尊重します。</p> <p>なお、②については、今回の会議(第2回)において、スクリーンを設置してワークショップにおける意見を映写するなど、既に対応済みです。</p> <p>傍聴者の方に関しては、退場者をなるべく出さないようにぎりぎりまで努力しますが、あまりに不規則発言等がエスカレートした場合、他の傍聴者に対する配慮も必要なことから、残念ながら、退場していただく可能性もあります。</p>
----	--	--	---	--	--

第3回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

	性別	年齢							お住まい			ご意見		鈴木顧問からの回答	
		70歳以上	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	19歳以下	未記入	西成区	大阪府内（西成区外）	大阪府外	未記入		今回議論された内容へのご意見
1	女性		○									○	<p>まちづくり全体の方針が不明。移転についても、行き当たりばったりの様な議論になっているのではないか！</p>	<p>福祉について等、高齢の問題のみで障がい者の問題は全くない。バリアフリー化の議論が全くない。銭湯やトイレの問題等、議論にのせて下さい。</p>	<p>今回のまちづくり会議は、行政が案を提示して、それを地域の方々が議論するというやり方は取っていません。ボトムアップで議論して、それを全体の姿にまとめ上げてゆくという方式を取っています。そのため、まちづくり全体の方針が決まるのは最後と言うこととなります。障がい者についてのご指摘、ありがとうございます。重要なお指摘だと思います。</p>
2	男性		○							○			<p>・西成区は怖くない所という意見があったが、准看護師が殺されて東京まで宅配された事件とか女医さんが自殺に見せかけて殺されたまま未解決事件になっている。これで西成区は怖くない、安全な所と言えるのか。 ・シェルターに宿泊している人、炊き出しに来ている人、あいりん総合センターで休んでいる人たち等からもアンケートを取ってみれば良いと思います。</p>		<p>西成は怖くないという意見は、あいりん地域における犯罪率が高くないという指摘だったと思います。これは事実です。ただ、怖いというイメージがあることや、全体として犯罪率が一定程度あることも事実です。それらについては、西成警察署と協力して「5か年計画」で治安改善を図っているところです。シェルター利用者などにアンケートすべきとのご意見、ありがとうございます。現在、どのような形で聞き取りをするか、アンケートするか、計画を作って検討しているところですので、参考にさせていただきます。</p>
3	未記入									○		○	<p>・病院が今後どのようなのか具体的な案が提示されないのが不安になる。どの程度の規模かを教えてほしい。2年程前から診療所として残すとの話を多くの方が聞いている。いろんな意見が出たが、結局病院はしないということのないように切に願いたい。 ・話し合いがどのように行われているかを傍聴に来たが、説明ばかりで嫌になった。傍聴者の意見でなく会議がどのように行われているか、どんな発言をするのかを詳しく知りたい。それを見たいと傍聴に来ている。</p>	<p>傍聴しに来たのに一方的な説明と質疑応答であった。話を聞いているのに、職員が声をかけてきて邪魔をされた。余計な口出しをするな、傍聴席の周囲を取り囲むような人達に脅威を感じる。出入口に大勢で立ってふさぐな、壁に向かって座らせて失礼な事だと思う。公聴会ではないのでWSと必要なのかどうか、意見を言う、書くにしても反映されるのではなく、一応聞いてやったで〜と終わるのではないか！萩ノ茶屋小学校とあいりん小学校を間違えるな、エエかげんやで！</p>	<p>社会医療センターについては、現在、この地域から無くさないということが決まっているだけで、その規模などは全く決まっていません。診療所として残すという案は、市政改革プランの外部有識者等が提言した内容ですが、それも決定されたわけはありません。まさに、現在、どのような病院をどのような形で建て替えるか、この場で議論しているところですので、ご意見がありましたら、アンケート用紙なり、次回の意見発表の場でご提示いただければ幸いです。傍聴は、ワークショップの過程の全てが聞けると言うことではありません。少なくとも、その回の議論の結論がきちんと傍聴できることが重要と考えています。また、第1回、第2回において、傍聴者から意見を言わせてほしいという要望が多く、もはや単なる傍聴と言うよりは、会場のワークショップの参加者という趣になっております。多くの方々の意見を反映させるということが一番重要なことですので、運営の仕方については、ご理解を賜れば幸いです。</p>
4	男性		○							○			<p>まちづくりの一環であれば、自治会のありかたのモデルケースをつくる。例えば入居条件に加入を原則にするなど、住人のネットワークを作るシステムを考えるべき。まちづくりはそこから始まるのでは？</p>	<p>寄り場は労働力を再生していく機能がある。そういった点をのばす。発展させる施策が、まちのイメージアップにつながる。住みたいまちになっていくのでは？</p>	<p>自治会、町内会の有り方についてのご指摘をどうもありがとうございます。申し伝えて参考にさせていただきます。寄り場の意見もありがとうございました。</p>

第3回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

11	男性																					<p>A.進行について 総花的にバラバラに進んでいる。会を3部制にすれば 1.委員のワークショップ 2.うわさ、報道、経緯の説明 3.委員以外の意見交換 前にいるスタッフの役割の明確化。鈴木氏は進行でなくて、説明係に徹してはどうか。 B.せつかくの意見をきく場だが、個別のテーマを示していただき、1つ1つに対して意見交換したい</p>	<p>・今「市長の意見」「特区の流れ」「区政会議の流れ」などあいりんに対する様々な会議などを再度わかりやすく示してほしい。 ・あいりん総合センター以外で「子ども」「安全」「防犯」「環境」などもしっかり議論する必要あり ・運営スタッフ等のこの会議の経費はどのくらいで、どの予算枠から？</p>	<p>運営についてのご意見について、ありがとうございます。今回の形がベストとは考えておらず、毎回、もっとも建設的な議論が進むよう不断の改善をしておりますので、ご理解を賜れば幸いです。あいりんセンター以外の課題についても、あいりんセンター建て替えに関連するまちづくりについては、順次議論を進めてまいります。ただ、西成特区としての子ども、安全、防犯、環境といった話し合いは、既に3年近い月日をかけて議論し、具体的な施策を行っているところです。また、これまでも、これからも、このテーマは、エリアマネジメント協議会の各部会で議論をおこなっておりますので、この検討会議というよりも、具体的な議論は、エリアマネジメント協議会でということになるかと思えます。以下、会議経費及び予算枠のお尋ねにつきましては、西成区役所からお答えいたします。 ～西成区役所からお答えします～ 予算は、西成特区構想調査費の予算枠から支出しています。あいりん地域のまちづくり検討会議の運営事業だけではなく、西成特区構想にかかる各種調査業務やエリアマネジメント協議会の運営事業等も含め業務委託しており、委託事業者とは7,884千円で委託契約をおこなっています。</p>	
12	男性																						<p>傍聴に来たのです。しかし、傍聴席のうしろは委員さん方の席。うしろから見られるのは気分よくないです。このような配置を考えた人の感覚を疑う。</p>	<p>運営についてのご意見について、ありがとうございます。今回の形がベストとは考えておらず、毎回、もっとも建設的な議論が進むよう不断の改善をしておりますので、ご理解を賜れば幸いです。</p>	
13	男性																						<p>たいへん消耗する会合であることがよく分かった。これでは生産的な議論がやりにくい。一度勝手な自由討論会をやらせて、司会も自主運営でやらせてはどうか。</p>	<p>委員だけの会議が別室で秘密で行われたのは、不信感を招く。取材もシャットアウトされた。これは公開の会合とはいええない。傍聴できたことになっていない。</p>	<p>運営についてのご意見について、ありがとうございます。今回の形がベストとは考えておらず、毎回、もっとも建設的な議論が進むよう不断の改善をしておりますので、ご理解を賜れば幸いです。</p>
14	男性																						<p>・教育、子育てに関して、街全体が「教育になる」「子育てになる」という街づくり構想。プレイパーク(タウン)構想を進めていく。 ・まずは、すぐできることとして、いま閉鎖されている公園すべて開放してみる。その際、子どもの安心、安全、自由に必要ならば、安全見守りの人員を増やしてみる。 ・子どもが最も解決したい課題として、学力に取り組む。必ず「わかる」「できる」ようになるまで、スモールアップで、その子の学力状況に応じて取り組む。無料塾を開催する。 ・子どもが参加する、子どもが対象のまちづくり検討会議、ワークショップを開催し、子どもの意見、質問を聞く。 ・すべての人々を対象に、野宿者(路上生活者、ホームレス)に関する学習会を開催する。課題解決の行動をする。 ・まちづくり検討会議へ大阪市長、大阪府知事、国関係省庁の参加が必要。国、府、市をあげての課題なのだから、ぜひ参加する必要がある。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございました。重要なご指摘だと思います。こどもという観点については、現在、教育関係の委員を増やす形で検討しております。また、ご指摘の点についても、この会議あるいはこの会議の後にける次のステップに反映できるかどうか、検討してみます。</p>	

第3回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

15	男性									○					○	<p>市長の言う「今の施設、建物の大きさは必要なく、それを縮小してもよいのではないか」「今ある職業紹介の規模は少なくともきちんと維持できるようにする」との話は実態の理解不足もしくは詭弁に思われます。</p> <p>地区での早朝求人車両は、毎日に変動はあるものの、100台近くが求人にくるものです。そして、現在でも寄り場内に入らず、あいりん総合センター付近路上で求人している車両もあります。</p> <p>寄り場は、一定の広さを必要とする空間です。単に、最盛期の求人と比べて何%になっているから、敷地はこの位でよいだろうという計算では寄り場機能が破壊されてしまう恐れがあります。</p>	<p>携帯の普及が寄り場に行くことを好まない層の日雇労働市場への参入を容易にした。携帯をもつ若い日雇労働者は「自分はこの仕事を一生していく訳ではない」と考えているし、労基法などの、労働者の基本的権利を知らない。そのため、賃金が安くても文句を言わないし、一人親方扱いをされて労働者性を奪われてもそのまま働いている。</p> <p>対して寄り場の労働者は互いの情報交換を通じて、労働者の権利について知っているし、きちんと文句を言う。労働者同士の情報交換をいうのは寄り場が持つ重要な機能である。</p> <p>あいりん総合センターは、今の寄り場機能を維持しつつ、より広範な意味での不安定就労層が集まり情報交換し、相談することのできる場所にすべきである。</p>	<p>ご意見をありがとうございます。重要な指摘だと思います。まさに、様々な可能性を含めて、この検討会議で議論することであり、市長の方針通りではなく、寄り場は今の面積で良いという結論があってもかまわないと思います。重要なことは地域の意見の結果であると市長も明言しています。より広範な不安定就労層のための寄り場という意見は、委員たちからもでておりますし、ご参考にさせていただきたいと思います。</p>
16	男性									○					○	<p>9/22と10/6の議論を聞いていて素朴な疑問として思うことがある。6年前にセンターが極めて低い値の耐震性能であることが判明し、せつかく耐震補強をすべく市や府などで協議していたのにストップしてしまっていることだ。9/22の会議のなかで耐震補強をしても建物自体があと15年位しかもたないという話があり、何を根拠に15年という年数がでてくるのか疑わしいが、いずれにしても損得勘定の問題ではない。センターは常にたくさんの方がいる訳で命にかかわる事柄である。いつ大地震が大阪を襲うかもしれない。真っ先に耐震補強すべきだ。</p>	<p>まず、市・府・国の議論がストップしているというのは誤解で、これまでもずっと行われてきましたし、いまも続いています。ただ、3者それぞれの利害もあり、議論がまとまらずに現在に至っているというのが実態です。耐震化という施策が決まっていたということも誤解で、行政的には何も手続きは進んでいませんでした。また、行政的には、建て替えが決まっている建物に、本格的な耐震補強を行うということは不可能であり、耐震補強か、建て替えか、部分移転・全移転か、いずれの方針化を早く決めることが重要と考えます。</p>	

第3回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

17	男性 要望書	<p>「あいりん地域まちづくり検討会議」の皆さまへ(結核入院病床を地域内の病院に作ることを求めます)</p> <p>私の母は1970年頃から10年以上に渡って結核での入院生活を繰り返しました。父もその間、3年ほど結核で入院しました。私も学生時代に発症し半年間の通院治療を受けました。その時は完治しましたが約10年後に再発し三種以上の薬が効かない多剤耐性であったため半年間の入院と退院後も一年間の通院治療を余儀なくされました。当該の病院は遠隔地にあったため両親への見舞いも、自らの通院もとても大変だった記憶があります。この町に来て9年になりますが、ここ5年くらいはバス検診車や医療センターのレントゲン検査を毎年受けています。今回の私の考えは自らの狭い経験だけから主張しているわけではなく、素人ながら結核に関する勉強はしてきたつもりです。結核は個人の責任に帰することではなく極めて社会的・経済的疾患であること、その証左としてあいりん地区の結核罹患率が全国で突出していること。一方でDOTSはじめ現在進められているあいりん地区の結核対策自体は高く評価出来るものであることを前提として意見を述べます。</p> <p>①排菌リスクが無くなった後の入院生活において外出や面会に来る仲間との対人コミュニケーションを容易にすることは患者の諸権利の擁護及び治療継続に必要と思われること。</p> <p>②入院中においても、行政・民間を含め療養・生活の支援側と患者との必要・十分な接触機会を持つことがその後の治療継続・再発防止に繋がると考えられること。</p> <p>③退院後の通院先と入院した病院が同一である方が高い治療継続率が見込まれること。</p> <p>以上、総じて結核入院患者の諸権利の擁護を含め、入院生活の孤独感、退院後の生活への不安を払拭すること。治療継続、完治、再発防止、ひいては西成区の結核罹患率の低下に導くには地域内の入院機能(結核病床)も含めた結核対策が取られるべきと考えます。</p> <p>結核病床は社会医療センターの建て替えに伴って併設するのが現実的かと思えます。一部には結核病床を同一病院内に作る困難性・コスト面等を指摘する意見もあるようですが、設計技術的にそれほど難しいとは思いませんし、社会医療センターの建て替え計画に過大な負担を課すものとも思えません。トータルなあいりん対策の中での結核問題の重要性を理解いただければクリア出来ると考えます。改めて、結核センター構想において地域内に結核病床を作ることの議論をまちづくり検討会議に求めます。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございました。参考にさせていただきます。入院施設のある地域内の結核治療拠点についても、今後、西成特区としてその実現化に努力してまいりたいと思っています。社医センの有り方も含め、この会議でも議論が行われるものと思いますが、それよりも、既に方針を打ち出している西成特区本体の課題だと考えております。</p>
----	-----------	--	--

第3回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

18	招請書	<p>現在行われている有識者によるワーキングショップ方式による話し合いの場で、傍聴者に対する不当な扱いについて、一方的に上から目線で話し合いが進められている。</p> <p>ここで言う不当な扱いとは具体的に傍聴者に対し次の通り規則が定められている事をいう。</p> <p>①ハチマキ・ゼッケンその他諸々の意志の表示の手段が認められていない。(国会などでは、ブルー色の拉致被害者リボン等を公然と議員が示している。)</p> <p>②国会や地方議会では当たり前に行われているヤジ行為に対し、当該行為者に対して強制的に議論の場から排除する事となっている。</p> <p>③現開催段階において、傍聴者に対して、最低必要な発言の機会が十分に与えられてこなかった。</p> <p>以上の様な運営方針から、傍聴者やワーキングショップの参加者の中には、当該ワーキングショップが最初から結論有りきのアリバイ工作(消化試合)との少なからず存在すると伝え聞く。</p> <p>したがって、ここは橋下市長自らが会場へ足を運び説明する事により、出来レースの疑義が強く持たれている当該ワーキングショップの必要性が担保されるのであり、ここに橋下市長の会場への招請をおこないます。</p>		<p>ご意見をありがとうございます。それも一つの考え方ですが、今回の検討会議でもっとも重要なことは、多くの方々の意見が反映され、建設的に議論が進むということです。ご指摘のような形では、意見を言いにくい人、立場を背負った意見しか言えない人、様々な可能性があり、現在の形を模索しながら続けています。もちろん、今回の形がベストとは考えておらず、毎回、もっとも建設的な議論が進むよう不断の改善をしておりますので、ご理解とご協力を賜れば幸いです。市長の会議への参加については、既に、第1回、第2回とご意見があり、市長には既にお伝えしております。</p>
----	-----	--	--	---

第4回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

	性別	年齢							お住まい			ご意見		鈴木顧問からの回答		
		70歳以上	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	19歳以下	未記入	西成区	大阪府内(西成区外)	大阪府外	未記入		今回議論された内容へのご意見	今回議論されなかった内容へのご意見
1	男性				○							○		労働問題の受け皿はないとのことでしたが労働問題を抜きにして移転や建て替えのイメージができるのでしょうか？(労働センターの事です)	労働センターについての議論(移転・建て替え・機能等)をするなら国・府もこの場に出てくるべきでは。	確かにご指摘の点はもっともだと思います。この会議でできることは、労働行政の詳しい中身まで立ち入らずに、耐震化やまちづくりの観点から、大まかな方針を出すところまでだと思います。出てきた意見は記録し、労働行政を所管する国、府に申し送りをしたいと思います。
2	男性	○								○				労働行政の過去40年間のできたことを総括してほしい。その上であいりんセンターの今後を検討していくべき	労働行政の過去40年間のできたことを総括してほしい。その上であいりんセンターの今後を検討していくべき	ご指摘の点は、よく理解できます。ただ、労働行政の中身や今後については、この会議では受け皿がなく、議論を完結できません。この会議でできることは、労働行政の詳しい中身まで立ち入らずに、耐震化やまちづくりの観点から、大まかな方針を出すところまでだと思います。出てきた意見は記録し、労働行政を所管する国、府に申し送りをしたいと思います。
3	女性					○						○	釜ヶ崎の将来のまちづくりについて、現時点での情報(環境・条件)をもう少し詳しく共有した上で議論が進められると、さらに有意義な場になるのではないかと思います。	釜ヶ崎の防火対策、安全管理の現状と課題について、耐震問題以外のソフト面(地域防災等)も協議していく必要性を感じた。	大変重要な指摘をありがとうございます。この会議では、大きな方針案、配置案を打ち出すところまでが役割だと思っておりますが、すでに、防災の観点の議論は出てきています(萩小の跡地の一部を活用すべきという文脈です)。	
4	女性	○										○	最初から各委員の議論を見せてくれると意義があるのに。我々はだれがどういった内容で議論をするのかを知りたかったので今回は良かった。しかしはじまりの説明はつまらなかった。出入り口を塞がれなかったので少々安心できた。スタッフが緊張して立っているのももう少し離れた位置に居てほしい。	4班に分かれていたので各班に回れなかった。3時間もあったのに無駄な時間が多かった。もっと有意義に傍聴できるように考えてほしい。「来場者」はおかしい。プラツと遊びに来たわけではない。みんなこの町が好き！ていねいな議論は良いがいじくりまわすのはやめてほしい。ファシリテーターがまとめすぎ威圧的になるな！	ご指摘をありがとうございます。現在の運営方法がベストであるとは思っておらず、毎回、試行錯誤を続けております。会場のみなさんにわかりやすいことも重要な点ですが、委員の皆様が議論しやすい環境を作ることも、ともに重要と考えておりますので、ご不便をおかけすることもあるかと存じますが、ご理解を賜ればと思います。	

第4回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

5	男性													西成区長が露店の許可制について考えているのとの報道について以前のアンケートかポストイットに書きました。西成区長さんも出席しているのに、口頭でも文章でも反応がありません。西成区長はツイッターをやっているのにこの会議の広報をやっていないのはなぜでしょうか。フェイスブックでいいね！を押しているのはよく見かけるのですが、委員名簿に記載されている人は毎回全員が出席しているのでしょうか。誰が出席した欠席したということを知りたいです。	ご意見をありがとうございます。西成区長関係のご指摘は、西成区長に申し伝えます。また、出席者については、直前まで出欠が確認できないために、(事前に大量に印刷する)配布物で皆さんに当日にお示しすることはできませんが、事後的に、HPなどで報告することは可能だと思いますので、区役所事務局に検討してもらいます。このように、運営方法については、不断の見直しをしてゆきたいと思います。	
6	男性													今回までの議論を聞いて、この一連の議論が「西成特区」という、ひとつの行政区を核として進めるべき内容ではないことが明らかになったと考えます。「西成」=「あいりん」=「労働者の街」という固定観念をふっしょくするためにも、この枠組での議論は、第6回をもってすみやかにやめるべきだと感じました。市営住宅については、その中であって緊急性などあることから単体として議論を具体的に進めるべきです。	西成特区の話は西成特区として、この一連の新今宮駅周辺の議論は別途大阪日本の課題である「労働センター」の今後について軸として再構築すべき。まちづくりについては民間の動きも含めて一つ一つ積み重ねが重要。	ご意見をありがとうございます。6回でひとまず議論を一区切りにしたいと思います。住宅については、移転先を含め、単体で議論しては到底結論が得られるとは思いませんので、この会議の中で結論を得たいと考えています。
7	男性													西成区を良くしていきたいという共通の思いを確認して、そこをスタート地点として話をスズメることが、建設的だと感じた。	街をどうたんでいくかも重要だと思う。縮みゆく社会の中で何を残すかを地域住民が合意にかけて、議論して処するのが重要と思いました。	重要なお指摘をありがとうございます。現在は、大きな方向性を得るための議論をしており、橋下市長の「えこひいきする」という特別の予算措置が行われているので、縮小という観点からそれほど出ていないのだと思います。ただ、今後、具体的な議論・予算化や事業化になっていったときに、縮みゆくという観点が否応なく重要になってくると思います。
8	女性													社会医療センターの機能強化を(結核センター ○○先生も提案)精神 救急		ご指摘をありがとうございます。すでに委員の中からも同様な指摘が出ていますので、具体化の議論になる段階で、十分に検討したいと思います。
9	女性													このような会がもうけられていること自体とても素晴らしい事だと思います。(他の自治体と比較しても)みなさん本当におつかれさまです。さまざまな方の意見があるので、各課題ごとに本当にその問題に密接にかかわるメンバーで話をすることも必要かと思いました。良い地域にしていきたいことをしていきたいと思います。		ありがとうございます。いろいろな意見をお持ちの方がいますが、この地域を良くしていこうという思いは同じだと思いますので、議論が実を結ぶものと期待しております。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

第4回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

10	男性	○								鈴木氏は「市長と知事しか決定権はない」と明言した。会場から「決定権のない人間ばかりで話しても無意味」という意見も出た。鈴木氏は「皆さんの意見は必ず市長にあげる。市長の回答を次回に公開する」といったが、「皆さんの意見が尊重されるかどうかについては保証できない」と言った。このような会議では開催の意味がない。決定権のある者の出席を用意すべきである。	この会議は意思決定をするための会議ではなく、地域の意見を整理してまとめるための会議です。市長は「地域でまとまった意見を最優先に方針を決定する」と西成区の区政会議で区民の前で明言しており、知事も同じ考えです。どのようにそれを保証するのか、今、市長に考えてもらっており、いずれ皆さんの前で、保証や担保の仕方を考慮した発表が行われることになると思います。恐らく、地域の方々やマスコミの前で、決断をして、実行を公約するという形の担保になるのではないかと個人的には想像しています。私にできることはそこまでであり(したがって、私自身にその保証はできませんと発言したつもりです)、保証をするのは市長や知事の役割だと思います。私が行っているのは、地域の意見を最優先に決断し、実行するという市長の言葉を信じて、地域の意見を整理し、まとめて報告するということです。私はそれを無意味だとは思っていません。また、今後、たとえリーダーがだれになろうと、解決すべき課題は同じであり、それに対して地域がまとめた案は強い影響を持つと思います。	
11	男性		○					○		今回やっと各テーマに沿った議論が進み良かったと思う。但し、委員はもっと前から議論に入っていたのに、傍聴席での話はおくれている。もっとテーマ別に意見交換をしたい。	子どもの世帯をどう呼びこむかを中心に①保護者の労働②住宅③医療④地域住民の居場所と議論の輪を広げていけばよいのでは ・都構想、特区とこの地域がどう関連していくか、整理必要・ワークショップの補助員、もっと地域を理解している人にすべき 話をまとめていない。	ご指摘はごもっともだと思います。時間がなく、十分な議論が尽くされていないことは認識しています。この会議では、大きな方針案を得るところまでが役割であり、個別の論点の具体化は別の議論になると思います。その際に、十分に時間をかけて議論してゆきたいと思います。
12	女性		○					○		労働グループのファシリ水内さんのまとめ(フロア全体)がずいぶん実際の話と違い、そのために傍聴者が怒ってしまったと思われる。具体的には2点きいたこともないまとめでした。1点目「高層化すればたとえ建て替えても場所が生まれる」←そんな意見はなく、むしろ「現場をつつる話は一切ない」で一致しました。2点目「現場にこだわらない」こんなことを言った委員は一人も居ませんでした。アリバイじゃないなら録画して下さいね。まだ発言されたことのない内容をまとめて発表してはいけません。ファシリテーターとして失格なので罷免交替を要求します。		ご意見をありがとうございました。1点目については、1クール目で出た「現地で建替えて高層化すれば場所が生まれる」という意見も踏まえた上で、現場を移る話はないということと一致したということです。2点目については、その場である委員が言ったことを確認しています。ただ、労働関係施設は、おおむね、ほとんどの方が、今の立地の中で考えるべきだという点でまとまったと認識しています。現場にこだわらないと発言した委員も、現地での立地を考えることを否定したわけではないと理解しています。
13	男性	○						○		医療センターの根本的な問題として、各科に分けるより医療全般として見る事が医療の基本である。		重要なお指摘をありがとうございました。おっしゃる通りかと思えます。

第4回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

14	男性																	資料4、No7のアンケートに関して鈴木顧問のコメントから 本検討会議と国府市三者会議(三者会議)との関係が今一度わかりません。例えばこれまでの検討会議で出された西成労働福祉センターの機能や役割とあいりん労働公共職業安定所のそれについてよくわからないという意見が出されています。この会議での最終ゴールが「ゾーン分け」と言われていることから、両会議との関係が明らかにされておらず、同時進行している三者会議の内容を公開していただくよう本検討会議からも要請していただきたいと存じます。そうしていただかないと、新たなあいりん総合センターの機能、規模、立地を議論していく際、この会議で出された意見をまとめた方向性について、あとは三者会議に委ねるというのでは、この議論が本当に実現できるのか、その担保は明らかではありません。とくに「労働の機能」を新しいまちづくり議論の中で生かしていく、反映させていくが重要な課題です。早急に国府市の議論をオープンにして、ここでの議論とジョイントさせ、オープンな形で議論を進めていかなければならないと思います。ご意見をお聞かせ下さい。	※上記の内容は本日の傍聴者との議論の中で鈴木先生からコメントされたことをふまえて今後明らかにしなければならないと思いますがご意見をうかがいたいと思います。◎鈴木先生はここでの議論をまとめて次のステージにつなげるとおっしゃっています。又、「シミュレーション」を検討している段階であるとおっしゃっています。それではここでの「労働」の議論は何をいつまでにまとめるのか明らかにしなければならないと思います。お考えをお聞かせください。	当日お答えした通り、行政の検討会が行ったことは、この地域の会議で出てくるであろう個別案について想定し、前もって、行政的な課題を洗い出し、実現可能性などをシミュレーションしたということです。地域ですでた案を迅速に具体案にするために、こうした作業は不可欠のものだと理解しています。ただ、具体的な予算の裏付けもなく、皆、想定の上で想定をした仮想的なシミュレーションですので、それをすべて公開することは、結論だけが独り歩きしてゆき、無用の混乱を招く可能性が高いと考えております。もちろん、公開できる概要についてまでは公開を行っています。行政の検討会で出てきたシミュレーション、パーツの議論は、地域の方々の意見をまとめる段階で、それに反映されて出てくることとなります。労働の議論を何をいつまでにまとめるのかという点は、会議で出てきた意見を記録し、労働行政を所管する国、府に申し送りしたいと思えます。
15	男性																	現在、住宅の住民の高齢化が進んでいるので、バリアフリー機能が必要だと思う。それと共に若い世代が住める住宅にすべきだと思う。労働センターの建てかえに関しては労働者の意見を1人1人きくべきではないかと思う。最終的に橋下市長が決定するなら、橋下市長が会議に出席するべきではないだろうか。	図書館等を西成区内につくるべきではないか。	貴重な意見をありがとうございます。バリアフリーや若い人が住める環境については、委員たちや第一住宅の説明会でも意見が出ておりました。図書館についても興味深い提案です。労働者たちの意見を聞くという点、市長の件については、すぐにお答えできるものではありませんので、検討をさせていただきたいと思います。
16	男性																	維新の会の意向に基づいて運営するのは、おかしい。	維新の会の意向に応じて運営はしておりません。誤解です。市長や知事の意向に応じて行っていることだと認識しています。	
17	男性																			
18	男性																	2008年度に、耐震診断の結果が出てからすでに6年が経過している。Is値0.2という、法的には、「地震に対して倒壊や崩壊の危険性が高い」となっていて一番悪いランクの数値にもかかわらず、今まで放置した状態になっている。無人の建物ならいざ知らずセンターには常にたくさんの方がいるのだ。真っ先に耐震補強を行い少しでも危険性を低くするのが、行政の責務だ。「西成特区構想」に絡めるのは間違っている。これは人命にかかわる問題なので完全に切り離して大至急耐震化すべし。いつ地震が起こるかかわからない。		現時点で、一番効率的で迅速な解決策は、今やっている議論を進めることだと思います。6年間、市・府・国が耐震補強を中心に議論を行ってきても、3者それぞれの利害が一致せず、議論がまとまらずに現在に至っているのです。それを続けても、迅速に解決策が得られるとは到底思えません。また、行政的には、建て替えが決まっている建物に、本格的な耐震補強を行うということは不可能であり、耐震補強か、建て替えか、部分移転・全移転か、いずれの方針化を早く決めることが重要と考えます。

第4回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

19	男性 第4 回検 討会 議へ 意見 書		○																																																																						
		意見 1点目に前半、一般参加者に「意見」を限定して発言を求めていたが、質問をしてからでないことがたくさんある。確かな情報を基にいないと間違った意見を言ってしまいかねないので意見をと限定せずしっかりと質問にも答えるべき。2点目に今の件と関連して労働行政に関することは多くが国の所管であり、当該者不在では情報もほとんど得られず、意見どころか質問もろくに出来ない。したがってこの検討会議のなかで「この会議は、センターのあり方をどうするかが主題だ」という主旨の発言がよくあるが、まちがっているので取り消すべき 3点目も今の件に関連するが、センターについての問題は2008年度におこなった耐震診断で強度が著しく不足していた事に端を発しているのであって建物の耐震性をどうするかが喫緊課題であったにもかかわらず、はじめの3年ほどで国、府、市の3者間で結論がまだでていなかったことに乗じて2011年に「西成区特区構想」を持ち込み、「センターピンである総合センター全体をどうするか」という問題にすり替えている。事は人命に関わる問題だ。倒壊、崩壊の危険性が出来る得る限り低くなるよう大至急しなければならない。したがってセンターの耐震問題をどう解決するかが最優先事項だ。耐震強度不足が判明してから早や6年経過しているが、そもそも耐震問題にかかる法律(耐震改修促進法)を公布しているのは国であり、その国が区分保有している建物が問題の対象になっているにもかかわらず、一体何をしているのか?この件についてはまず国は何を言っているのかを知りたい。まさか市もしくは府・市に耐震問題、労働行政問題とも「おまかせします。そちらで決めてくれたら従います」などと言っているのではあるまいな?																				一点目についてはご主旨を理解しました。私も質問を軽視するつもりはなく、今回は意見を言う機会だったことと、時間の制約があったことから、意見をお聞きすることを優先しました。実際には、質問も随分あり、答えたと思います。また、質問であれば、例えば、このアンケートのような形で答えすることができます。そして、会場のワークショップという形でも、これまで随分と質問にお答えしてきました。労働行政について、国と府が入った会議をすべきという点は委員の議論でも出ておりますので国、府に申し送りをしたいと思います。第二点目ですが、この会議の本題だといっているのは、あいりん総合センターという意味での「センター」です。労働福祉センターの「センター」ではありません。第三点目の耐震化の話ですが、確かに行政の不作为と放置は大きな問題です。ただ、現時点で、一番効果率的で迅速な解決策は、今やっている議論を進めることだと思います。6年間、市・府・国が耐震補強を中心に議論を行ってきても、3者それぞれの利害が一致せず、議論がまとまらずに現在に至っているのです。それを続けても、迅速に解決策が得られるとは到底思えません。また、行政的には、建て替えが決まっている建物に、本格的な耐震補強を行うという事は不可能であり、耐震補強か、建て替えか、部分移転・全移転か、いずれの方針化を早く決めることが重要と考えます。第四点目ですが、国や府の考えは、それぞれに問い合わせただくべき問題かと思えます。ただ、市に労働行政の話全てを任せるなどという考えはないと理解しています。																																																			

第5回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

	性別	年 齢							お住まい			ご意見		鈴木顧問からの回答		
		70歳以上	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	19歳以下	未記入	西成区	大阪府内(西成区外)	大阪府外	未記入		今回議論された内容へのご意見	今回議論されなかった内容へのご意見
1	女性	○										○	病院についてならば、周辺の病院の専門科目とか利用状況とか情報を併せて規模・設備を考えた上でなければ敷地の広さや場所を選択できない。少なくとも大阪市所有の未利用地を落とした地図を貼り出してほしい。		ご意見をありがとうございます。検討をさせていただきます。	
2	女性		○									○	社会医療センターには療養型の施設を併設してほしい。超高齢化社会に向けて対策してほしい。あいりん地区の高齢化率独居率は高いときいています。一般病棟だけでは対応できないのではないのでしょうか？労働行政を本来の形に戻し、労働センターにはもっと労働生活問題の相談をしっかりとれる体制をつくってほしい。なんでもかんでも生活保護にしてしまうのではなく「働いて生活できる」ことが大事だと思います。規模の縮小はありえないです。		ご意見をありがとうございます。検討をさせていただきます。	
3	男性	○										○	発想が違うのでは？市長、知事が変わろうと住民自治は現場で意見をまとめ、行政に要求をする。行政は、その要求にこたえるべく予算を組み対応していく。それがあたりまえの姿ではなく、今のまちが行政のシステムにまどわされすぎでは？出発点がどうであれ、これだけの人が集まってされた議論から、西成区独自でできることは区長判断で決済し、市・府の範囲の部分は住民の要望として行政担当者で協議して実現してゆくべきである。市長、知事がどうであれ、議会が最終判断機関のほうでは？	目先の事だけにとらわれず、長期的な視点で考えてゆくべきでは？たとえば、労働福祉センター今後増えてゆくであろう、若年女性の就職難に対応できるように、総合的な労働福祉センターへの改革。(府内唯一の労働関係の複合施設の拡充。現状から全住民対応への労働福祉センターへの転換)	貴重なご意見をありがとうございます。区長で対応できることは区長で、市長・知事の判断で可能なことは彼らに、議会が最終判断しなければならないことは議会にという仕分けをきちんとするということだと思います。長期的な視点でという点もその通りだと思います。	
4	男性	○										○	市営住宅の電灯、LED電キにして下さい。各へやに防はんベルをつけて下さい。各階にタンカー、車イスをおいて下さい。		ご意見をありがとうございます。担当局に申し伝えます。	
5	男性		○									○		ヤジが少なくなったが、議論は低調になったように感じました。	議論については、結論に向けて、まとめつつある段階だと認識しております。	
6	男性	○										○		「あいりん地域とは？」等、あいりん地域の範囲についてよく質問が出されているが、それに対しての明確な回答がなされていない。例えば、「あいりん地域の現状と今後—あいりん施策のあり方検討報告書—」(2011年3月、大阪市立大学都市研究プラザ編)の101ページにはあいりん地域の範囲が地図で掲載されている。(花園来た1、2丁目の一部、萩之茶屋1、2、3丁目、太子1、2丁目、天下茶屋北1丁目、山王の全域)・資料でいただいた地図にある私有地はこれだけでいいですか。全て網かけをして名称も明示してください。		ご意見をありがとうございます。この検討会議は、あいりん総合センターの建て替えとそれに伴う周辺のまちづくりについて議論することをテーマとしております。あくまで建て替えが直接・間接に影響しあうエリアでの議論をしております。したがって、あいりん地域がどの範囲になるか、どの地域を含むかということは、この検討会とは直接には関係が無い事柄だと考えています。

第5回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

16	男性		○							○		<p>初めに答えありきの不毛な議ろん(シェルター利用者)も生活保護者もそういう方々の意見は明らかに上から目線で■■■のあつまり■■■や■■■と同レベル。1回～4回に比べ鈴木氏のトークは多少はわかりやすくなったが集会○○が通用しない。会議初め7～19分で鈴木氏は市議員の人々地方議員の○○づけとも考えうる発言をした。市民の公僕たる議員は給与分仕事をして当たり前。鈴木氏はもう少し○○○○○○○○○考えていただきたい。</p> <p>注:■■■→不適切な発言のため事務局で伏字にしました ○○○→判読不能</p>	<p>ご意見をありがとうございます。運営方法については、いろいろなご意見をいただいて改善していきたいと思っております。</p>
17	男性 第5回検討会議への意見書(第4回終了時掲載No.19の回答に対する反論)		○							○		<p>まず、大阪市の所管は住宅と医療センターだけなのにセンター全体をどうするか(特区構想)に絡めてこの会議をすすめていることがおかしいと言っているのである。また6年前の耐震問題発覚後、「3者の利害が一致しなかったので耐震対策が出来なかった」と言うが、その内容が明らかにされていないので、いくら「今やっている議論を進めるのが一番早い」言われても、私は少なくとも特区構想が持ち上がってから3年間は解決を遅らせる原因になっていると思っている。この会議の主催者は大阪市からの請負で、いわば「ご商売」なのだからそんなふう言うのだろうか、耐震性の低い危険なセンターを普段利用している人たち、働いている人たち、暮らしている人たちにとっては「生き死に」の問題である。なぜこの時期に市営住宅住民との話し合いなのか。もっとはやくおこなっておくことではないのか？そもそも国をはじめ各自治体は、行政所有の建造物で耐震性に問題があれば、まっ先に対策を行い同時に耐震改修促進法に基づき、民間の建造物所有者にも積極的にはたらきかけなければならない立場なのだ。この西成区はもとより大阪市内の民間建造物の耐震対策はどれだけ進んでいるのか？一番の問題は「特区構想」などと夢物語のようなことを言う前に、一軒一軒の民家をはじめとした建物の耐震対策がすすむような対策を実施することであり、このことは「まちづくり云々」以前の問題でもある。以上</p>	<p>ご意見をありがとうございます。住宅、医療センター、労働者の皆さんが一刻も早く安全な環境を取り戻すべく、最善の手を考えていきたいと思っております。</p>

第5回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

18	<p>男性 続・ あい りん 地域 のま ちづ くり 検討 会議 のメ ンバ ーの 皆さ まへ (結 核入 院病 床の 地域 内設 置の 願 い と 補 足)</p>	<p>前回の文書で私が結核入院病床の地域内設置を求める理由を①感染リスクが無くなった後の入院生活において外出や面会に来る仲間とのコミュニケーションを容易にすることは患者の諸権利の擁護及び治療継続に必要と思われること。②入院中に退院後の生活設計の相談等を、行政・民間含め支援側との必要・十分に行えることが、その後の治療継続・再発防止に繋がると考えられること。③退院後の通院先と入院した病院が同一である方が高い治療継続率が見込まれること。と書きました。今回はその補足意見を提出します。国内でも、また世界的に見ても突出した結核罹患率が数十年に渡って続いていたにも関わらずあいりん地域には結核病床どころか結核の専門医が居なかったという現実があります。本来、とうの昔に存在すべきであった結核病床、結核専門医の派遣が国・大阪府・大阪市の行政的な不作為、もしくはあいりん地域への差別的な政策によって実行されなかったということではないでしょうか。結核という疾病が個人の責任に帰するものではなく、きわめて社会的・経済的の疾病であることに加え、結核病床・結核専門医の長期的な不在が、感染・発病・再発の連鎖を断ち切れなかったと考えるならば、あいりん地域における結核患者はその被害者と言わざるを得ません。更に結核は一定の隔離という、もちろん感染拡大を防ぐには必要な施策ではありますが、患者の生活上の諸権利の制限を伴います。入院病床を他の地域にゆだねることは感染のリスクがなくなった患者の日常的な生活環境・人間関係・必要十分な情報サービスを受ける権利を更に奪うこととなります。それは、たとえば特殊な疾病を患った人が地域に専門医がいないので他の地域の専門病院に入院することは本質的に違うことかと思えます。社会医療センターの議論の中で結核と他の診療科目とのバランスや、隔離病床を作ることの負担を指摘する声もあるようですが、上記の現実を考え合わせればおのずと優先順位は明らかではないかと考えます。検討会議のメンバーの皆さまへの考え方、立場の相違はあると思いますが、結核入院病床を地域内に作ることへのご理解・ご協力を重ねてお願い致します。尚、この文章がこれまであいりん地域で結核対策に奔走されてきた方々の努力、及び現在実行されている新たな結核対策の実践を否定的に捉えていることではないことは書き添えさせていただきます。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。結核対策を含め、社会医療センターおよび地域内の医療提供体制の拡充に関する議論は、この検討会議が終了してから、担当部局において第二ステージとして議論が進められると理解しております。そちらに、ご意見を申し送りたいと思います。</p>
----	---	--	---

第5回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

19	男性 公開 親書 兼委 任状	○								○	<p>委任事項本文書を差出人は、大阪市特別顧問鈴木亘に対し大阪市長に提出する事を委任した。その効力は、受任者が本文書を受領した時点で効力を発する。親書貴殿が弁護士を本業となされている時に、執筆された「白を黒と言わせる」「相手を丸めこむ」というご本がございます。それらのご本の内容を私なりに解釈いたしますと、以下の通りです。1市民のいかなる意見も、行政は無視して業務を遂行するテクニックが述べられている。2上記のテクニックを駆使する為の組織の運営方法が述べられている。まさに、現在行われているこの検討会が、貴殿が執筆されたご本の通り、丸め込まれているのが当事者で、丸め込んでいるのが行政であるという構造である。ところが、私の望む貴殿のあるべき姿は、貴殿が、一定のご成功をなされたご経験を行政に反映なされ、すなわち、社会的弱者の側に寄り添った首長であります。そこで、わたしは貴殿のことを現在もご信頼申し上げております。この様な私に貴殿から以下の事項についてお手紙をいただけましたら幸いです。1 今回の会議の主旨は大阪特区構想の一環であるのか、無いのか。2 どの様な点で、そもそも大阪特区構想は住民の利益につながるのでしょうか。3 西成特区構想の目玉である、小中一貫校と、元来から当地に住まう社会的弱者との共存のりかた。ながながと、学の私のお手紙を最後までお読みくださいまして、ありがとうございます。</p>	<p>ご意見をありがとうございます。今回の会議は、特区構想とは直接関係が無いものと考えております。また、小中一貫校とも直接の関係はありません。お手紙は、政治的な論点も含んでおります。特別顧問が、お答えできる範囲を超えておりますため、市長に提出しておきました。</p>
----	----------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---